

全日制・普通科・集住地域
多文化共生実現のための組織化
母語・継承語の指導
多文化研究部（部活動）

大阪府立 東淀川高等学校



日本語指導が必要な生徒を受け入れて 5 年目を迎え、「外国人生徒等がいて当たり前」「サポートして当たり前」という認識が形成されています。母語・継承語を学ぶ「第一言語」という授業がありますが、生徒は悩みなどを相談する機会にもなっています。また、多文化研究部で、外国人生徒は文化活動も行っています。

学校名	大阪府立東淀川高等学校	所在地	大阪府大阪市
課程・制度・学科	全日制・学年制・普通科		
特別入学枠	有	措置	—
全校生徒数（人）	789	外国籍生徒数（人）	47
特別枠入学者数（人）	16	日本語指導が必要な生徒数（人）	47

2017 年より、外国人生徒等の特別入学枠が設置され今年 5 年目を迎えます。受け入れ・指導体制やカリキュラムを入学した生徒の進級とともに整えてきました。例えば、1 年目に 1 年生の、翌年に 2 年生のカリキュラムを作成しました。特別入学枠で入学した外国人生徒等を、「くろーばぁ生」と呼んでいます。

生徒の実態・とりまく状況

2021 年度に入学した「くろーばぁ生」は 16 人です。中国、フィリピン、ネパール、タイ、ガーナに文化的・民族的背景をもつ生徒です。小学 4 年に来日した生徒から海外の中学校を卒業後に来日した生徒までさまざまです。滞日間もない生徒には、日本語の力が低く、日本システムを十分には理解していない者もいます。在留資格は、家族滞在と定住者が多いですが、永住者や日本国籍を持つ生徒もいます。一般入試で入学した外国人生徒等もいますが、これまでは日本語指導が必要なケースはありませんでした。

受け入れ体制

入学前の生徒の状況把握：入学前に外国人生徒等に対しては、合格者説明会で来日年月、在留資格、滞在年数、学習歴などの聞き取りを行っています。「くろーばぁ生」には家庭訪問と中学校訪問も行っています。一般入試で合格した外国人生徒等には、保護者懇談での通訳の有無と日本語指導を受けるかどうかの意思を確認しています。

校内組織：「多文化共生推進 4 者会議」（毎週 1 回開催）、「多文化共生推進委員会」「抽出担当者会議」（学期に 1 回程度開催）によって、「くろーばぁ生」の指導と多文化共生の取り組みについて検討していま

す。「多文化共生推進 4 者会議」では生徒に関する情報交換、クラブ活動計画の検討、「多文化共生推進委員会」では情報交換と外国人生徒等対象の授業のカリキュラム検討、「抽出担当者会議」では生徒の学習状況や授業に関する情報共有、評定のつけ方などを確認しています。

校内分掌：進路・生活指導・生徒指導・教務の各分掌に多文化担当者が 1 名おり、入学後の生徒の状況の把握をしています。

学習指導・支援の工夫と特徴

日本語指導

学校設定科目「時事日本語」における日本語指導の他、国語科の取り出し指導を能力別クラスで実施して日本語の力を高めるための指導をしています。7 名の教員で担当しています。

学年	授業内容		
1 年	国語総合・4 単位 (能力別に 3 クラス展開)		
2 年	現代文 B・3 単位 (能力別に 2 クラス展開)	時事日本語 I・2 単位 (能力別に 2 クラス展開)	
3 年	現代文 B・3 単位 (能力別に 2 クラス展開)	時事日本語 I・2 単位 (能力別に 2 クラス展開)	国語表現・2 単位 (文系に限定して開講)

教科学習支援

日本語力と学力から総合的に判断して、必要な生徒には教科の取り出し指導を行っています。各教科の教諭と常勤講師 26 名、非常勤講師 10 名で担当しています。

学年	授業内容
1 年	現代社会・数学 I・数学 A・化学基礎・コミュ英 I・英語表現 I・保健 (日本語能力や学習歴などをふまえ、能力別に 2 クラス展開)
2 年	数学 II・生物基礎・物理基礎・保健・日本史 A (1 クラス展開)
3 年	総合社会・数学活用・時事英語 (1 クラス展開)

キャリア支援

多くの生徒が大学・専門学校への進学を希望し、就職希望者は多くありません。

就職活動は、就職希望の日本人生徒と同じ条件となります。職場を紹介したり、面接の練習をしたりしてサポートをしています。昨年度、初めてフィリピンの生徒 1 名が就職しました。

進学については、多くは一般選抜か総合型選抜で受験しています。その他、学校推薦型選抜(指定校制)をねらう生徒もいます。進学を強く望む生徒には浪人をする生徒もいました。そのため、1 年時から、外国人生徒等向けの進路説明会を実施し、個別の懇談でも早めの進路選択を促しています。

特色ある取り組み「部活動：多文化研究部」

母語・継承語：母語・継承語クラスとして学校設定科目「第一言語」を全学年に設けています。1年生は必修、2、3年生は選択です。特別非常勤講師とNCT（中国と母語教師）で指導をしています。

多文化研究部：外国人生徒による部活動を組織・運営しています。1年生の外国人生徒等は全員入部します。週2回の活動で、火曜日は日本語学習、金曜日は文化活動をしています。2年生の一部は日本語能力試験受験に向けて勉強をしています。また、通訳ボランティアやスピーチ大会への参加、大学見学なども行っています。この時間を利用し、進路指導・保護者懇談・事務書類の提出のサポートも行います。

国際理解教育委員会：各学年で「総合的な探究の時間」などを使って国際理解教育を推進しています。

PTA 活動：文化発表会の場で、母語スピーチや国の紹介、各国の料理の交流会などを行っています。

学外との連携

高大連携事業：関西大学との連携事業として、大学生が日本語指導や放課後の活動に参加しています。

学外の活動への参加：学外で実施されている次の活動に積極的に参加しています。

- ・大阪府立外国人教育研究会主催の行事
- ・NPO 法人おおさかこども多文化センター主催の地下鉄ボランティア
- ・豊国際交流センター主催の豊国際フェスティバル

出前授業：生徒が近隣の小学校に行き、英語の授業などを行っています。

今後の取り組み

入学前・卒業後のキャリア支援（進路選択支援）：中学生や海外の中学校を卒業して受検しようと考えている受検生への説明会や見学会の実施に取り組みたいと思います。高校卒業後に母国での進学を希望する生徒や学習意欲が低い生徒には、3年間で卒業するためにどのように学校生活を送ってほしいかを入学前に説明する必要があると考えています。また、卒業の自分をイメージできるように先輩を招いて話を聞く機会を設けたいと思います。

教科学習支援の体制維持：普通科専門コース設置校であること、学級数減に伴う教員定数減で、指導体制をどのように維持するかを検討しています。放課後や土日に校内外で教科学習支援を実施するような仕組みを考えています。

ヒアリング実施日：2021年8月24日